

《史料紹介》

『典院ニーコン・ヴォロビヨフの手紙から ：痛飲について』

渡 辺 圭

[解 題]

ロシア正教会は信者の啓蒙を眼目として大小様々な文献を発行・販売しており、これらは「霊的文献 (духовная литература)」と称される。ここに紹介するのは、アルコール依存症の問題を扱ったロシア正教会発行の小冊子典院ニーコン・ヴォロビヨフ (1894 - 1963) の書簡『痛飲について』(2015)¹である。この資料を紹介する動機は、①現在のロシア正教会における「長老制 (старчество)」の有効性、②ロシアにおける社会問題としてのアルコール依存症の二点に集約される。まず①について説明したい。ロシア正教会における長老制度とは、高德の苦行僧である「長老 (старцы)」による霊的な指導である。長老は修道士にとっては霊的な導き手となる宗教上の師であり、一般の信者にとっては日常生活の悩み相談を受けもつカウンセラーのような存在であった。現在のロシア正教会においても、長老の助言や励ましは正教徒に有用なものとして印刷物のかたちで流通している。次に②について。2016年にイルクーツクで入浴剤等に使用されるローション「バイヤールシュニク」の偽物をアルコールの代用品として飲んだ住民が、同年の12月27日までに77名死亡するという事件があった²。ヴェネディクト・エロフェーエフ (1938-1990) の長編『酔どれ列車、モスクワ発ペトウシキ行』(1973)³に象徴的に表現されているように、アルコール等の酩酊に対する渴望は、ロシア人にとって今に至るまで深刻な精神的病理である。ここに訳出したのは、旧ソ連邦時代の苦行者、スモレンスク州ガガーリンの典院^{イグーメン}

1 Из писем игумена Никона (Воробьева). О пьянстве. Православное братство святого апостола Иоанна Богослова. М., 2015. これは、А.И.Ошпобフ編集の「掌院ニーコン・ヴォロビヨフの手紙より」シリーズの一冊である。なお、今回取り上げた小冊子の翻訳は書簡の部分であり、「付録」の箇所は訳出しなかった。シリーズには他にも次のようなものがある。Из писем игумена Никона (Воробьева). Духовник. Православное братство святого апостола Иоанна Богослова. М., 2015.

2 『朝日新聞』2016年12月28日。

3 ヴェネディクト・エロフェーエフ著、安岡治子訳『酔どれ列車、モスクワ発ペトウシキ行』国書刊行会、1996年。

ニーコン・ヴォロビヨフが、アルコール依存症に苦しむコゼーリスクの公認会計士セルゲイ・マニーロフとその妻カーチャに宛てた書簡（1958-1963）である。この手紙が交わされた当時はまだ精神医学が発達しておらず、当著では依存症が悪霊による外部からの誘惑とされている（アルコール依存症は、飲酒のコントロールを喪失した脳の機能障害である）。典院ニーコンの書簡は現在の精神医学とは対応していないが、霊的指導者である長老と正教信者の関係性を考える上で興味深い参考資料となっているのである。

[訳文]

ア・ビヤーンストヴェ
痛飲について

掌院ニーコンの手紙より

エカテリーナとセルゲイ・マニーロフ⁴夫婦へ宛てた手紙

親愛なるカーチャ！あなたの手紙を読みました。あなたが、そしてセルゲイはもっと気の毒です。あなたは正しい道にいますが、セルゲイは破滅の道にいます。正しい道は一つです：私たちは魂と肉体が歪められた、重い病に罹患した、不浄な、神の王国に相応しくない、祈りによって神に向かうことさえ相応しくない存在である、と意識すること。あなたが自身の深い悲しみを、自らの罪の浄化においてあなたが身を委ねるところの、神に由来するものと受け取っていること、そのように意識していることが私には嬉しい。この状態を保ちなさい。それが唯一正しいことなのです。己を罪人だと認識しない者は、真実の道から外れ、虚栄心と誘惑の方へ遠ざかり、神から離れ、想像の豚⁵を放し飼いにする遠くの方へ、高慢な悪魔へと落ちていくことでしょう。

悲嘆や誘惑なしに人間が謙遜^{スミレニエ}に至ることはないのです。虚栄心、自己愛、そして高慢さは人間の内に深く巣食っており、それらを根絶し、少なくとも何らかの謙遜に導くためには、強力な手段と、悲嘆と誘惑に学ぶ長い時間が必要なのです。謙^{へりくだ}りがなかった故に、高位の天使が悪魔へと墮し、アダムとイヴが楽園を追われたのです。私たちだって謙遜がなく、まだ罪深いままだとしたら、失われた楽園には入れないでしょう？人間が自らの墮落と自らの傲慢を理解しない限りは、深く謙らないうちは、いかにしてもそれは駄目であり、聖書における徴税人のように心から神に呼びかけることも出来ないのです：「神よ、罪人である私にお慈悲を、主よ、あなたのみわががなければ私に救いはありません、あなたの大なるお慈悲によって私を憐れんでください」。(ルカ18: 9-14)

4 セルゲイ・ペトロヴィチ・マニーロフは、コゼーリスクで公認会計士として働いていた。激しく^{シエリナ}飲んでいた。

5 放蕩息子のたとえ話（ルカ15: 11-16）を参照せよ。

敵ども⁶がセルゲイを駆りたてた時は、物質的に彼を守る（全ての危険な対象を隠す）努力をなささい、重要なのは、祈りです。神は一秒だって私たちを放っておかないのです。もしもセルゲイがあなたに逆上することが神のみこころに適わないのなら、セルゲイも全ての地獄もあなたには何もしいでしょう。主である神はサーロフの聖セラフィムが殴打されることを許容し、彼を受難者、キリストの十字架に参入するものとしたのです。もしもあなたが同じように出来るのなら、神はあなたが苦しむことを容認します。そしてもしもあなたにまだ忍耐と謙遜がないのなら、神はそれを許容しないのです。「私たち自身、お互いに、全生命を私たちのイエス・キリストに捧げます」。

大変あなたに同情し、主からのあらゆる慈悲を願います。神はあなたを祝福し、全ての敵からあなたを守ります。今も、そして永遠とこしえに。アーメン。

あなたの祈りの時、私を忘れないでください。

セルゲイが破滅に至ることを神が許容しないように、何時も彼に対して祈りなさい。

私はあなたの悲しみにくれた手紙を受け取りました。あなたに大変同情します。セルゲイもかわいそうです。いたずらに人間が破滅しているのです。病に脅かされていた時には彼は正しい道に向かっていたのに、快復した時には全てを忘れていて、ということが特に良くありません。治癒された病人に対して救世主が言われた言葉を彼に言ってやりなさい：あなたは健康になりました。より悪くならないように、これ以上罪を犯してはなりません。病院のベッドに38年間寝たきりになることよりさらに恐ろしいことがありますか？死後の永遠の悲しみのようなものに違いありません。あなたの祈りとセルゲイに対する愛に報いて、神が彼を教諭したのです。もしもセルゲイが主である神を拒否し、彼が行い（言葉によって主の大きなみわざを認識せず、悪霊たちによってイエス・キリストと神を認める）で主を悲しませたのなら、自らの行いにふさわしいものを受け取ることでしょう。神は侮辱によって存在するものではありません。

あなたは神に忍耐と庇護を乞いなさい。神がつかわす災厄として、神に仕える苦行者たちを悪霊どもが襲い、彼らを打ちのめし、恐ろしいほどの憂愁を引き起こすのです。これら全てに対し耐えることによって、彼らは自らの神に対する愛を証明し、主から褒美を与えられたのです。神はセルゲイからの、正しく言えばセルゲイを道具とした悪霊たちからの攻撃を、神はあなたに対して認めているのです。

6 キリスト教文献において「敵（*враг*）」という言葉は、不浄な力—悪意ある霊、悪霊、悪魔の意味でよく使われる。

神に関することは忍従しなさい、私の親しき人よ。最後まで耐え抜く人は救われます。秘蹟の、^{ドゥホーヴヌイ・ザコーン}靈的な法は、このようなものです：沢山の悲しみが神の王国へと参入させる。神の祝福と彼の助けはあなたを全ての悪から庇護します。恐がらないでください。神の意志無しでは、あなたの頭から髪の毛が落ちることはないのです。悪霊は後ろにも前にも飛びますが、物事はあなたに然るべく進行します。

そう、主である神はセルゲイを悪魔から救い、彼が懺悔することを助けます。言われていることは：もしもあなたが神に仕えることに取り組むのなら、誘惑へのあなたの霊を整えなさい。

もしも人間が完全に悪魔の支配下にあるのなら、福音書に従って生きようと努力している人や悪魔の手を振りほどこうとした人に対して、いやらしい行為をしないでいられますか？敵は凶暴な憎悪でもってイエス・キリストを憎み、彼を磔刑にしたのです。教え子は先生以上にはなりません。あなたは、*内的な人間*⁷に準じて、主が十字架の道行きによってあなたを導くことを、心の全てでもって主に感謝出来ることを喜ばなくてはなりません。セルゲイと彼自身の悪霊だけでなく、全ての地獄は神が認めたもの以上のことは出来ないのです。人間として、自分の安全に対してあなたが出来る方法を取り、その他の事は神の意志に委ねなさい。神について喜びましょう！あなたは不平を言わなかったことだけで聖人たちの栄誉に与ったのですから、感謝の念で最後まで十字架を担いなさい。

神は決して自らに仕える者を放ってはおきません。彼が良くなっていくのか、あるいは、彼には裁きが待っているのか、耐えてください。

そう、神はあなたを助けます！どこにいても最後まで耐え抜くように助言してください。神がそう決めてくださいますように。恐れしないでください。どこまでも、いつも私がおあなたを助けます。主である神はあなたを祝福し、大事にします！

この手紙をセルゲイに関連して書きます。彼は悲しみにくれてあなたたちのお互いの関係について話しました。私が知る限りでは、あなたたち両方に罪があり、間違った振る舞いをしています。

もしも彼がお酒を飲んだら、彼を憐れむ必要があります。彼はすでに己の強い欲求の虜になっているのです。一人では、自分の力では、彼は逃れることは出来ません。あなたは、助ける代わりに、彼を非難し、今の段階では彼に出来ないことを要求しているだけではないですか。あなたは自分が正しいと考えているかもしれませんが、大いに間違っています。

7 内的な人間とは一魂の理性的・靈的な部分であり、神の霊の器としての心である。

もしもあなたが彼より霊的であるのなら、彼の病気を背負うのがあなたの義務です。あなたたち、強き者たち、弱々しい病気を背負いなさい—これがまさに主があなたに求めていることなのです。主はこうも言われました：あなたたち、*霊的な者たちよ*、このような者（例えば、セルゲイのように）を*柔和な霊で治しなさい*。聞いていますか？叱責や非難、口論や自己正当化等の行為ではなく、柔和な霊で治しなさい。そのような態度はあなた自身を駄目にします；あなたがセルゲイの魂に応えるのなら、セルゲイだって病気に耐えることが出来ます。

全くの確信をもって、私の魂の全力で、愛でもってあなたにお願いします：彼の前にへりくだって、自分自身に罪があると見做しなさい（あなたが何らかの点では正しかったとしても）、過去の全てに対して赦しを乞いなさい。その後で、平和と二人の救済のために全ての事をする、という誓いを神にたてなさい。あなたはセルゲイなしには救われませんし、セルゲイもまたあなた抜きには救われません。一人の人間の破滅は、他の人間の破滅になるのです。あなたたちは結婚したのですから、一つの人間になったのです。もしもあなたの腕が病気になったとしても、あなたはそれを切断せず、治療するでしょう。あなたたちには、一緒に救われるか、一緒に破滅する必要があるのです。主はこのように言われています：*あなたたちの敵を愛しなさい、あなたたちを呪う者を祝福しなさい*、など。あなたたちにとって、お互いに愛し合い、隣人に魂を捧げること以上に大事なことはありません。あなたは主の要請を知っています：*もしもあなたが祭壇の前に捧げものを持ってきたのなら、あなたの兄弟は何かあなたに対抗する者であることを思い出し、まずはあなたの兄弟と和解し、その時やっと供物を持ってくるのです*。その時にだけ、神はあなたを受け入れますが、それ以外のやり方では、神はカインの供物のように、あなたの捧げものを拒否するでしょう。

懺悔してください、私はあなたの精神状態が心配なのです。あなたは、自らに罪を認め、それについての嘆きを書いて、話しましたね。これは高度な状態ですが、私はある時からそれを疑うようになりました。敵はあなたを欺いてはいませんか？自らの罪を誠実に観察している時は、深刻に相手を裁いてはならず、それはあなたがセルゲイを悩ませているように、より一層悩むことに繋がります。あなたはセルゲイが病気の時に、彼に健康を要求してはならず、彼の衰弱に対して寛大な態度を示さなくてはなりません。何かより悪いものを引き起こさないために、彼が泥酔している時には叱責するのではなく、黙っていなければなりません。彼が素面の時は、がみがみと怒るのではなく、協同の努力によって彼の弱さを克服するために、あなた方がどのようにあるべきなのか、一緒に議論しなさい。あなたが罪なき存在ではないことを思い出す必要があります。外見上は、物事が全て正しくあることは可能ですが、深く精神的な事柄においては（つまり諸々の原因）、神の御前で狡猾なものになりうるのです。

聖大ピーメンは、私たちの救済は隣人のうちに、つまり、隣人への愛にある、と言いま

した。全ての人も、そしてあなたも同様に、このことから始める必要があります。もしもあなたが全ての努力に集中せず、セルゲイだけを責めるのなら、いかなる祈りも、働きかけも、施しも神のみこころに適うものにはなりません：彼を救うのか、彼の救済のために破滅する覚悟をするのか。このような状況下でのみ、神はあなたの祈りと善行を受け取るのです。

セルゲイには、この手紙についても、その内容についても話してはいけません。そうしなければ、害を被るでしょう。私はあなたにそれを禁じます。セルゲイが私に色々話して、それで私が動いたから、私があなたに手紙を書いた、とは考えないで下さい。そうではありません。まだ春の頃から、いやもっと前からは私はあなたの行いの誤りを感じていました。

そう、主である神がここに書いたこと^ニの理解と、セルゲイとの平和と愛の獲得を助けます！主があなたを祝福し、あなたの魂を癒します！あなたに善と救いがありますように、との願いをもって、私はあなたを愛する者であり続けます。N。

カーチャ、セルゲイとともに私に手紙を書きなさい。書かれた内容に双方が同意するように、お互いに添削し合いなさい。

親愛なるセルゲイ！やあ！元気ですか？あなたの健康状態はいかがですか？あなたに会って話をしたいと大いに願っておりました。自分自身に対する極限の害に達するまで、なかなか見事に飲み続けていると聞きましたよ。この道の先に、人間に何が待っているのでしょうか。今私はあなたに手紙を書きます。

もしもあなたがこの疾患と闘わないのなら、あなたは悪霊どもの完全な支配下に陥ります。悪霊たちはあなたにもっと、ほらもっと飲むようにとあなたをそそのかし、これによってあなたは神経系統について考察することになるでしょう。苛立ちやすく、激怒するようになります。最初は軽い口論だったのが、完全に荒々しく、長くなっていくのです。お金は足りなくなり、職を追われます—持物を売却せねばならなくなり、屈辱的なかたちで借金を頼まねばならなくなり、盗みを働いてしまう可能性すらあります。憤怒は悪霊的な敵意にまで、殺人の衝動にまで強まります。

秘密裡に活動している悪霊たちは、盗人の姿に、野生のけだものに、蛇やその他の姿に変わるようになります。その後、連中はその醜悪で恥ずべき姿を顕わにすることが出来るようになるでしょう。もしもあなたがそこで上手く収めないのなら、例えば放火や殺人などの何らかの重い犯罪を強要され、その後完全な孤立状態になり、自分自身に終止符を打つように強いられます。もし仮に死によって人間が完全に消滅するのなら、苦痛が終わることを喜ぶことが出来ますが、しかし完全消滅はないのです。アルコール依存症者、自殺

者は小さな、一時的な苦しみから最終的には悪魔の権力に委ねられ、消滅することの叶わぬ最高に恐ろしい悲しみに至ります。

霊的な人たち、罪と闘いそれを克服した者たちが、最初に霊的な世界を徐々に感じていき、その後天使たちを見ることが出来るようになるように、暴力的な欲望側に身を置き、後悔している者たちは悪霊を見て彼らの奴隷になるのです。

すでに霊的な人間と悪魔の奴隷の外見が、それぞれの道がどこに続くのかを物語っています。その果実によってそれらを知らさる—主はこのようにおっしゃっています。

親愛な、可愛い、善良で頭の良いセリョージャ！正気になってください：あなたはどこに行こうというのですか？もしもあなたにとってここが辛いのなら、死んだ後は一体どうなるのですか？欲望は地上に比べて何千倍も強く、それを鎮める何らかの可能性もないまま、炎のようにあなたを焼いてしまうことでしょう。失われた人生に対して、完全な罪に対して、良心は休みなく動き続けるウジ虫のように、あなたの心を咬むようになります。聖なる人々と天使たちの社会において、自分は永遠の幸福を自分自身で失った、という意識は、あなたを永久に引き裂くことになるでしょう。

セリョージャ、もしも飲酒をやめられないのなら、あなたは、良くないことをして、自分自身に害をなし、周りの人たちを怒らせ、主である神を嘆かせることになることと意識しておきなさい。このことを理解して、屈んで神にしがみつき、せめて一日に一度神に向かって言いなさい：「主よ、私は破滅してしまいます。私を救って最終的な破滅までは至らないようにしてください。主よ、罪深い私を憐れんでください」。もしも、毎日 アット・フシヴォー・セルツァ 心の全てでこのように言うのであれば、主である神はあなたの全ての罪を赦し、あなたを破滅から救い出すことでしょう。

最初に天国に入るのは盗人です。これは主が私たち罪人を励まし慰めるためになされたことです。衷心から懺悔する者を主は赦してください。いかなる罪人も絶望する必要はないのです。自分がすでに破滅したなんて言わないでください、これは悪霊の考えです。一人の懺悔した罪人にとって、幸せは天国にあります—主はこうおっしゃっています。私たちの救い主である彼は、破滅した者を処罰し、救済するために地上にやって来られたのです。悪霊どもを恐れなさい。もしも連中が何らかの形をとって顕われたのなら、その時はイエス・キリストの名前を呼び、自分のために十字を切り、悪霊たちに対しても十字を切ると、奴らは煙のように消滅します。ナイフやその他の物質的な武器で闘わないでください。悪霊たちは物質的な武器を恐れないので、神の名前によって闘ってください。

*Обышедшие обыдоша мя, и именем Господним противляхся им*⁸、真のキリスト教徒たち

8 私を包んでくれました、私を取り囲んでくれました、そして神の御名によって、彼らを拒否したのです（詩編117、11参照）。

は悪霊たちから身を護り、私たちにこのことを教えてくれたのです。

セリョージャ、わたしは常にあなたのこと祈りの時に思い起こしています。私は、^{リトオルギヤ}聖体礼儀の度に誓いをかけ、主である神があなたを教え諭し、あなたが悲しみから解放されるのを助けるようにパンのかけらをあなたのために取ります。あなた自身はせめて少しでも闘うことだけをして、悪霊たちに手を伸ばさないようにしなさい。繰り返しますが、あなた自身はせめて一日に一度地面にひれ伏す礼拝でもって、神があなたの破滅を見過ごさず、無限の悲しみから救ってくださるよう^{ドゥホーヴニエ・クニーギイ}に乞い願いなさい。自らを憐れみなさい、カーチャを憐れみなさい。あなたはかつて彼女を愛していたのではないですか。おそらく、今だって愛しているでしょう。彼女を悩ませていることが残念ではないのですか？もしも神に対して、自分の罪を赦せ、とあなたがむっとしている時は、カーチャに赦しを乞いなさい。あなた自身が自分の隣人と平和な状態でないのなら、どうやって神と和解するのですか？

いかによからぬことを起こそうとも、失望しないでください。輝ける瞬間に、神に祈りなさい、彼はあなたを助け、全てを赦してくださいます。セリョージャ、正気になって、自分自身を憐れみなさい！私たちのところへやって来ててください。ここでは懺悔も出来ずし、^{アット・フシヴォー・セルツァ}聖体を拝領することも出来ます。教会に通い、^{ドゥホーヴニエ・クニーギイ}霊的な本を読むのです。休暇をとり、一人でも、カーチャと一緒に、あなたの都合に合わせて、やって来なさい。

セリョージャ、私は罪深い人間です、^{アット・フシヴォー・セルツァ}心の全てであなたに同情しています。

主である神は、私の何千倍もあらゆる罪人に同情しており、全ての罪と醜悪さを赦し、救済するようにと彼らが自分に訴えてくるのを待っておられます。祈りによって神に訴えかけなさい、己の罪を懺悔しなさい、粗野な人々と呪われた所業から離れなさい、そうすれば神はあなたを救うでしょう。いかなるところでも働かないのが一番ですが、飲んではいけません、自分自身を害してはなりません。今のところはカーチャがあなたを養っていますが、体調が良くなり、自分をしっかり保てるようになった時は、神があなたに害のない仕事を用意してくださいます。あなたは、魂の平穩、静けさ、喜びを手に入れるのです。ですが、今あなたは苦しみ、自分を破滅させ、あなたの家族に苦悩を強いています。

もしもあなたが痛悔と謙りでもって神に向かわないのなら、あなたには大いなる苦しみ^{タール}が待っており、死後は一嘆き、齒ざしり、闇、^{タル}無底の地獄、不死のウジ虫、消えない火、永遠の、恐ろしい、耐え難い、決して終わることのない悲しみが待っています。

いかにここが辛くなかったとしても、全ての地上のものは終わりを迎えるのです。死んだあとは、終わりのない永遠一筆舌に尽くし難い永遠、あるいは、恐ろしい悲しみがあります。選択肢は私たちの手の中にあります。神は全ての人に永遠の幸福を願いますが、無理やり自分の方へ引き寄せることはありません。光と幸福の中で主とともにありたいと思わないなら、あなたは悪魔の方へ、永遠の暗黒と悲しみへと行き着きます。

ここに書かれていることは一疑う余地なき真実です。自分自身を憐れみなさい、セ

リョージャ、自分自身に寛容でありなさい。アーメン。

心からあなたを愛し、あなたの良きことを願う、あなたの友人であり、父親。

親愛なるセリョージャ！あなたからの手紙を受け取りました。おそらく、あなたはすでに手術を受けたと思いますが、成功していることを願います。私はいつもあなたのことを思い出し、肉体の健康だけでなく、それと比較できないほど重要な魂の健康を願っています。あなたの病気は偶然ではなく、偉大な神の恩恵として、あなたの魂の救済のために贈られたという私の考えを信じなさい。あなたを害し、あなたを愛する人たち全てを悲しませた醜い生活から自分を切り離す必要があったのです。

私は、あなたが不適切な過去を完全に認識し、それを後悔していると確信しています。かつての忌まわしいことを浄化出来るのは主である神だけです。そしてもしもあなたが不平を言わず、感謝して神に向かい、自分の肉体の病に耐えるのなら、それはあなたの信仰、自身の後悔と謙りを示し、過去に犯した罪に対する赦しだけでなく、荒々しい誘惑との闘争のための未来を、そして死後は一全ての聖人たちとの交流の中の永遠の生命、筆舌に尽くし難い喜びが与えられます。憂鬱にならないで下さい、私の家族よ、憂愁と不信心を追い払い、頻繁に神の名前を呼びなさい、そうすれば、主はあなたを慰め、病に耐える力を与えてくださいます。

憂愁とふさぎ^{タスガコ}と闘う時は、意識して次のように言うことを自分に強制しなさい：「あなたに栄光あれ、神よ、あなたに栄光あれ、神よ！私に^{アット・フシヴォー・セルツァ}相応しいものを受け入れます。主は私の魂の救済のために、病気を私に贈りました。あなたに栄光あれ、主よ、あなたに栄光あれ、主よ」。

これらの言葉を十回、百回、確信をもって心の^{アット・フシヴォー・セルツァ}全てで唱えなさい、すると、少し後に、心が軽くなったこと、平穏と静けさ、揺るぎなさ、そして忍耐を感じることでしょう。それは、神の恩寵が訪れる前触れなのです。残りの人生を、^{バ・フリステアンスキー}キリスト教徒として生きることを神に誓いなさい、そうすれば、主は地上におけるあなたの人生の日々を伸ばしてくださいます。後悔と、神の王国において不可欠な、新しい魂の特徴を獲得するためのものを：謙り、柔和さ、全てにおける節制、慈悲心、敬虔さ、そして神への感謝、その他のもの。

人々と会話するのを控える努力をし、内なる祈りの練習をしなさい。

主である神は、あなたを祝福し、有益なるもの全てを教えてください。ですが、あなた自身は、悪から離れ、喜ばしいことを成し、あらゆる人間に巢食う罪と闘いなさい、なぜなら、神の国は努力によって掴み取るものだからです。

あなたの身体と魂が健やかでありますように。

セリョージャ、過去の事について、心配しないでください、もしも思い出してしまった時は、神に赦しを乞いなさい、そうすれば、神は自身の裁きにおいて、あなたの犯した罪を思い出したりはしないでしょうから。それらを繰り返すことだけはせず、敵のそそのかしに屈しないようにしなさい。

あなたは、「まだ敵と闘う術を身につけてはいません」と書いています。これは、^{シコーリニク}学校の生徒が言うことと全く同じです：「私はまだ教授にはなれません」。私たちには、謙遜と神への祈りによって敵に勝つ方が良いのです、ご存知のように、神自身が私たちを救済し、敵を負かすために。全てに対して頻繁に主である神に感謝し、全く不平を言わず憂愁の念を持たない者として、悲しみと不愉快なことを受け容れなさい。^{ドゥホーヴニエ・クニーギイ}霊的な文献と^{エヴァンゲリエ}福音書をもっと読みなさい。地上の生はまもなく過ぎ去り、永遠の生となります；永遠の生が苦痛ではなく喜びとなるように、それに対して準備する必要があります。地上の生はそのためにあるのです。救われなさい。

^{ベスホージヌイエ・クニーギイ}無神論の本は読まず、^{ベスホージニキイ}無神論者とは話さないようにしなさい、そうしなければ、自分自身を害し、余計な悲しみに引っ張られます。霊的な力に達していない会話と読書を神聖なる教会は決然として禁じます。敵は無神論者たちをそれらの会話を始めるように目覚めさせ、あなたには、彼らを神への信仰に向けることが出来る、あなたは破滅やその他諸々のことから彼らを救わなければならない、という考えを与えます。これが悪魔の狡猾さです。あなたも少し破滅していますよ。あなたを教え諭す言葉ではなく、あなたには、自分自身を納得させる言葉ではなく、非常に強い信仰心が必要なのです。他人についても同じだと考えてください。もしも主である神があなたを憐れみ、同様に全ての人を憐れみ、全ての人を救済しようと望むのなら、人間は、少しだけでも、何処に真実があるのか、何処に虚偽があるのかを探すだけで良いのです。主はあなたとカーチャを祝福し、あらゆる幸福なことを教え、悪から護ってくださいます。

親愛なるセリョージャ、あなたとカーチャに平和を！お手紙有難うございます。私にはあなたのことがとても心配になってきました。残念ながら、過去があなたを強く押し潰しているようですね。少なくとも、あなたはこのことを意識しており、それは私には嬉しいことです。私はこれに対してあなたを断罪しません。人間は弱く、罪は魂の中で強く活動し、悪霊どもは、奴らから回避しようとする者に対して、墮落と以前の罪深い生活への何らかの回帰は不可避である、と怒るのです。このことに惑わされたり、憂鬱になってはいけません。草鞋^{わらじ}を即座に編み上げることは出来ません。沢山の悲しみ、闘い、努力によつ

て、全ての人は神の王国に参入するのです。

神の国は、まだ発酵していない小麦粉に入れる酵母に似ている、ということをお前は
エヴァンゲリイ
福音書で読みましたね。人間の魂も福音の酵母によってすぐに発酵することはないので
す。この発酵のプロセスは、時には速く、時にはゆっくりと進行します。私が何について
話しているのか、お分かりですね。何の改善も見られなくとも、困惑しないでください。
必要なのは、一つです：エヴァンゲリイ福音書の戒律に従って生きることを目指しなさい、闘いなさい、
言葉によって、思考によって、あらゆる罪に対して十分に抵抗し、粗野な誘惑に身を委ね
ないようになさい。もしも屈してしまったら—その時は、神の前で懺悔しなさい、赦し
を乞いなさい。そして再び闘いなさい、死んでしまうまで。

あなたは自分自身では何も掴むことは出来ないということ覚えて、常に全ての誘惑に
おける救いを、主であるイエス・キリストに呼びかけてください。そうすれば、あらゆる
罪と全ての悪魔の活動に打ち克つ力が、あなたの善良な意志に対して働きます。もしも何
らかの罪の誘惑に勝ったとしても、これを自分自身、自分の力に帰することはせず、神が
罪の克服においてあなたを助けたことを、主に対して感謝しなさい。もしもそれを自分自
身の力だとするならば、再び同じ罪に堕ちます。

イミキ・ボージェ
神の名前を頻りに唱えてください。あなたは善と悪を少し理解しましたね。主である神
は今、あなたが神と彼の神聖な戒律に愛着を抱き、それによって人生をコントロールする
ことを、あなたに望んでいます、悪魔のそそのかしや罪によって生じた自身の墮落した本
性によってではなく。選択肢はあなたの手の中にあります。主はあなたの意志が何処に傾
いているのかをご覧になっています。地上での生は、神か、あるいは、悪魔か、どちらか
をそこで人間が自由に選択できるように与えられたものなのです。未来の生は、次のよう
な訳でこちらの生に依拠しています、全人生を通して罪に対して、悪魔に対して働きかけ
た者たちは、死に際して永久にそれらと共にあり続けるという。一方、人生全体において
神に心惹かれた人々は、時には墮落したとしても、主である神と共に永遠の幸福の中にあ
り続けます。

主は目的も無くあなたに病を贈ったわけではなく、罪に対する罰というよりはむしろ
ドゥホーヴヌイ・ザコーン
(霊の法)によれば全ての罪には悲しみが伴うにもかかわらず、罪深い人生からあなた
を引き剥がし、救いの道に立たせるための、神のあなたに対する愛に由来するのです。あ
なたのことを配慮するという、このことを神に感謝しなさい、自由意志による罪を嘆きな
さい、全ての罪と闘いなさい。それ以外の方法では、過去よりももっと辛くなり、苦しむ
ことでしょう。

モスクワに来た時は寄りなさい。もし可能なら、カーチャを何日間か解放してあげな
さい。何かであなたを憤慨させてしまったのなら、私を赦してください。カーチャに挨拶と
神の祝福を。ご自愛ください。そう、神はあなたを祝福し、魂を救済することを助けます、
取るに足りない狡猾な地上の興味関心のために魂を滅ぼさないようにしていただきます。

親愛なるセリョージャ！

あなたの夢は以下のことを明確に示しています、第一に、私たちの救いの敵は、私たちの魂へ侵入しようと尽力し、魂を奪い、それを汚し、神にとって無用な事を成そうとしている；第二に、敵どもを回避するためには、家や聖堂における祈りと戒律の遵守が不可欠である；第三に、神は全ての人間を憐れみ、彼らの救済を望んでいる。罪人たちの救いのために、主ご自身が受肉され、唾をかけられること、殴打、嘲笑に耐えなくてはならないほどの、罪人に対する愛が神には必要だったのです！

もしも私たちがこの神の愛に対して、無関心、不信心、罪と闘うことへの消極的な態度、神の戒律の意識的な侵犯、涙の懺悔に代わる自己正当化でもって応えるのなら、その時何が私たちを待っているでしょう？神の顔リツォー・ボージェからの追放が待っています。

セリョージャ、あなたは、外的な意味でも、内的な意味でも、今の時代に持っている人がまれな、懺悔と救済のための条件を揃えています。もしもあなたがこの条件を行使せず、救いの業を脇にやってしまうのなら、あなたは非常に自分自身に対する欺瞞を犯してしまうことでしょう。明日という日は、私たちに確証を与えてくれるものではありません。主である神は、全ての者に警告しています：どの瞬間も準備していなさい、あなたはあなたの魂に訪れる日も時間も分からないのですから。

私は大いにあなたへ警告します：いかに罪が小さく見えたとしても、あなたはいかなる罪も正当化してはなりません。全ての罪は神の意志に対する侵害であり、神への憎悪を示すものです。私は愛します—主は言われます—私の戒律を遂行する人を。それ故に、全ての犯された罪は懺悔によって浄化される必要があるのです。

セリョージャ、あなたの家には靈ドゥホーヴナヤ・ジーズニ的生活の先生がいます—カーチャです。彼女の前では、あなたは赤子—乳飲み子です。ですから、彼女に耳を傾けなさい、靈的生活においてあなたが興味を持つこと全てについて、質問しなさい。いかなる靈ドゥホーヴヌイ・アチエーツ的師父も、カーチャがあなたにしているようにはあなたを愛せません。それ故に、あなたは彼女から沢山の有益なものを受け取ることが出来るのです。

もしもあなたが既にカーチャの言葉に対して疑いを持っているなら、私に手紙を書きなさい。私は、私の意見ではなく、聖師父たちの見解で、このような事態に関してあなたに表現するよう努力します。スヴャトクイエ・アツツイ

私を思って祈ってください。カーチャを傷つけては駄目ですよ、そしてもう一度言っておきます—靈的な問題について、彼女に耳を傾けなさい。

キリスト甦り給えり！

親愛なるセリョージャ、私はあなたが完全に敵の網の中へ落ち込んでしまったと聞きました。本当にこのことが見えてないのですか？敵があなたを破滅させようと望んでいることが分からないのですか？あなたの生きる時間は少ししか残っていません。もしも考え直さないのなら、死後すぐに悪霊たちの手の中に落ちてしまいます。奴らがどれ程残酷なのか、あなたは知っていますか？奴らには一つだけ満足を得られることがあります一人々に危害を加え、苦しめることがそれです。悪霊どもの手の中に落ちた人間が、どのような恐怖に、どのような悲しみに耐えなければならないのか、誰にも分かりません。理性を欠いた中身が空っぽの人間は、時にこう言います：「他の人々にある事は、私たちにも起こる」。果たしてこれが慰めになるのでしょうか？どの人にとっても悪魔なんかたくさんです。この言葉に慰められないように。

セリョージャ、神はあなたに沢山のことを示しています。あなたは、自分が快復することを約束し、あなたに懺悔のための時間を与えるように頼みましたね。主である神はあなたに時間を与えたのですよ：主はあなたの生きる時間を延ばし、仕事から解放し、全ての面倒を見てくれました。神は、パーヴェル神父とあなた個人の妻という人のかたちで、あなたに助けを与えたのです。それなのに、あなたは何をしていますのですか—どうにかこうにか懺悔はしましたが、あやうく酒臭いまま聖体拝領を受けるところでした。これは一体どういうことですか？あなたは何を考えているのですか？**神は侮辱などしない**、ということを知ってください。主は罪を犯した人々からの懺悔を待っておられます、何故なら、神は長い間耐えておられるからです。それから理性が欠如した人たちはこう言います：罪人たちが平穩無事に暮らしているということは一神は存在しないのだと。神は罪人たちを憐れみ、善によって、悲しみによって、そして病によって彼らを教え諭しているのです、罪人たちの快復を期待しながら。もしも罪人たちが改心しないのなら、その時神は、彼らの死後然るべきことで報いるために、罪人たちの地上の生においては彼らの意志に任せます。敬虔な人たちはよく苦しい死に方をしますが、罪人たちに関しては次のように言われています：**罪人たちの死は残酷なものであり—死後はより一層厳しいものになる。**

セリョージャ、あなたは愚かではなく、心が無いわけでもないではないですか。あなたが何処に行こうとしているのか、考えなさい。アット・フシヴォー・セルツァ誠実に、心の全てで、外面的にはなく、教会の慣習に沿って、多くの事を成してしまう深い悲しみ抜きで懺悔なさい、そしてその後、自らの裁きにおいて聖体拝領を行いなさい。あなたは、自分の家で、一人になって、神の前で泣き、アット・フシヴォー・セルツァ心の全てで過去の醜い生活に対して赦しを乞いなさい。快復のために助けを願いなさい。そして何よりもまず、誠意をもってカーチャに赦しを乞いなさい、アット・フシヴォー・セルツァカーチャが心の全てであなただけを救うように、彼女と和解しなさい。人が敵意の中にある時、神はその人物の祈りを受け容れません。このことは知っていますよね。カーチャとあなたが傷つけた全ての人と和解するのは、そうして勇ましく主である神に屈みこみ、

あなたを破滅まで至らしめないように、主に懺悔なさい。

あなたは完全な屈辱に値する人です。悪霊どもにとってあなたを奈落へ突き落とすことなど造作ありません。もしもどうしても飲酒がやめられないのなら、自宅で飲みなさい、カーチャを悲しませることはなりません。飲み始める前にせめて1・2秒でもいいから祈りを捧げ、こう言いなさい：「主よ、私は自分の力でウォッカを我慢することは出来ません。今飲み始めます、酔っ払います、おそらく、妻に悪態をつき、罵ることでしょう。主よ、可能でしたら、私を抑えてください、あるいは、再び酔っ払う私をお赦してください」。このように祈っている時に、いつもより少なく飲むように努力してください。あなたの酔いが醒めた時、最初にすることとして、あなたがカーチャを悲しませなかったかどうか、醜悪にも彼女に悪態をつかなかったかどうか、その他について彼女に訊きなさい、神に赦しを乞いなさい。

親愛なるセリョージャ、一人の改心した罪人に関しては、幸福は天にあるということを知りなさい。神の前で泣くことを我慢はできないでしょう、赦しと、耐える力を与えてくださるように懇願なさい。とにかく、神と隣人たちを悲しませないように衷心から願ってください。どのような状況下でも自分を正当化してはなりません、自分自身以外は誰も非難してはなりません。自己正当化の中に破滅があるのです。それは悪霊どもの声なのです。神と人の前で謙りなさい。見栄を張るのではなく、神があなたを断罪しないように、あなたは誰も裁いてはなりません。自分の眼から丸太を引き抜きなさい、その時あなたは、いかにして他人の眼から枝を引き抜くことが出来るのかを知ることでしょう。自らを憐れみ、最後まで破滅してはなりません。そう、神はあなたを教導し、援助し、あなたの破滅など許容しないのです。

親愛なるセルゲイ・パーヴロヴィチ！

あなたの長文の手紙を受け取りました。その手紙から分かるのは、あなたが何一つ学んでいないということです。全ては古い歌と同じです、自己正当化、他者の非難、自身の救済への努力に対するやる気の無さというね。神の助けによって霊的に善良な人々のところへ上昇する代わりに、それはカーチャのレベルまでですらないですが、あなたは常にカーチャがあなたのところまで墮落するように骨を折っているのです。

あなたの成すことは明白です。もしもあなたが救われたいのなら、飲むことと、自分を悪霊たちの手に委ねるようなことはやめなさい。もし神があなたの醜悪さを取り捨てたとしても、悪霊どもはあなたに容赦しないでしょう。あなたは、暴飲とそれにまつわる汚らしいものだけでなく、その他の数え切れない罪も忘れてはなりません。自分自身を正当化するのではなく、神に赦しを乞いなさい。しかし神は、自分は他者を赦さない、などと

いう人間を赦しません、それなのにあなたは全く執念深い人ですね。私は予言などしたくはないですが、真剣に言いましょ、もし快復しないなら、あなたは残酷なほど苦しむことになる、ということ。

あなたは、自身の全ての罪に対して、ファリサイ派を付け加えています。あなたの不幸な舌は、全ての醜悪な事と罪を正当化し、他者を非難しています。そして人々はこのことを信じていますが、あなたは神の眼の中で、主が嫌った存在のファリサイ派として振る舞い、生きている間は彼らを非難してしまうのです、もしあなたが懺悔しないのなら。

もしも救われたいのなら、告解の時に過去の罪を懺悔なさい、そして、家では毎日の祈りにおいて、過去の全ての罪を思い出しなさい、過去を赦し、将来罪を犯さないための力を与えてくださるように主に乞いなさい。

その他の問題には答える必要はありません。あなた自身は、以前いかにしてする価値の無いことに踏み込んだかを知っていますよね、今も知っている必要があります。救われなさい。主である神は、あなたを教え諭し、助けます。主を騙そうと試みるのはおやめなさい。私の考えはこうです：他の人たちを恐がらせる目的で、故意に絞首台に上る人でさえも、悪霊たちは意志に反して絞殺するのです。そのような馬鹿なまねはやめなさい、自分を憐れみなさい、悪霊どもへと手を伸ばしてはなりません。

飲酒の欲求があなたを強く引きつけた時は—地面に平伏す礼拝を三回行い、こう言いなさい：「主よ、私の頹廃ぶりが再び私を飲酒へと駆り立てています。私は耐えられません、耐える力がありません。もしあなたがお慈悲をくださるのなら—私に抑制する力をお与えください。もしも私が、このことについてあなたの助けに値しない、というのであれば、その時私の身体器官は悪霊どもから大きな損害を被ります、もしも飲んでしまうのならば」。

もしもあなたが、いつもの大酒の前に謙りでもって主にこのように懇願するのなら、主である神はあなたへ抑える力をくださいます。しかし、もしもあなたが再び他の人々を糾弾するのなら、あなたはまた悪霊たちの手に委ねられてしまうのです。

私は病んでいます。これ以上書くことができません。私のために祈ってください。カーチャに挨拶と祝福を。

マニーロフ夫妻に宛てられたこれらの手紙は、^{イグーメン}典院ニーコンによって、1958年から1963年の間に書かれたものである。夫の死後、人生の最後の時間にカーチャは^{ケルビム}智天使の名前で、シャモルディノー修道院にて修道者としての剃髪を受け、1995年に当地で息をひきとった。

[原文]

**О ПЬЯНСТВЕ.
ИЗ ПИСЕМ ИГУМЕНА НИКОНА
Письма супругам Маниловым,
Екатерине и Сергею*.**

Дорогая Катя!

Прочёл твоё письмо. Жаль мне тебя, ещё более жаль Сергея. Ты стоишь на верном пути, а он на гибельном. Путь верный один: сознать, что мы грешники, искажённые душой и телом, прокажённые, нечистые, недостойные Царствия Божия, недостойные даже обратиться к Богу с молитвой. Я рад, что ты и сознаёшь себя такой, и скорби свои принимаешь как от руки Божией, как заслужившая их, во очищение грехов своих. Держись этого устроения. Оно единственно правое. Кто не сознаёт себя грешным, тот сбился с правого пути, удалился в болото тщеславия и прелести, отошёл от Бога *на страну далече* пасти свиней мысленных*, в рабство гордым бесам.

Без скорбей и искушений человек не может прийти в смирение. Тщеславие, самолюбие и гордость так глубоко гнездятся в сердце человеческом, что нужны сильные средства и длительный период обучения скорбями и искушениями, чтобы искоренить их и привести человека хоть к некоторому смирению. Без смирения высшие Ангелы стали бесами, а Адам и Ева изгнаны из рая. Как же нам без смирения, да ещё с грехами, войти в потерянный рай? Никак нельзя, пока человек не поймёт своего падения, своей гордыни, пока глубоко не смирится и не будет от всего сердца взывать ко Господу, как мытарь: *«Боже, милостив будь мне грешному, Господи, от дел нет мне спасения, помилуй мя по великой Твоей милости»*.

Когда враги* возбудят Сергея, старайся оградиться от него и вещественно (прячь все опасные предметы), и главное молитвой. Господь ни на одну секунду не оставляет нас. И если Ему неудобно, чтобы тебя обидел Сергей, то ни он, ни весь ад ничего тебе не сделают. Господь попустил избить преподобного Серафима, дал Ему стать мучеником и участником Креста Христова. Если ты будешь способна к этому, то и тебе может Господь попустить

* Сергей Павлович Манилов работал бухгалтером в городе Козельске, сильно пил.

* См. притчу о блудном сыне (Лк. 15, 11-16).

* Слово враг в христианской литературе часто употребляется для обозначения нечистой силы—духов злобы, бесов, дьявола.

страдания, а если ещё нет терпения, и смирения, и любви к обидевшему, то и не попустит. «Сами себя, и друг друга, и весь живот наш Христу Богу предадим».

Очень сочувствую тебе, желаю всяких милостей от Господа. Господь да благословит тебя и да оградит от всякого зла ныне и во веки веков. Аминь.

Прошу не забывать меня в твоих молитвах.

Молись всегда за Сергея, чтобы Господь не допустил его до гибели.

* * *

Я получил твоё скорбное письмо. Очень жалею тебя. Жаль и Сергея. Пропадает человек зря. Особенно нехорошо то, что когда болезнь угрожала, тогда он обратился на правый путь, а когда поправился, то всё забыл. Скажи ему слова, сказанные Спасителем исцелённому расслабленному: **Вот ты выздоровел; не греши больше, чтобы не случилось с тобою чего хуже***. Что может быть ещё хуже, чем 38 лет лежать в постели больному? Не иное что, как вечная мука после смерти. За твои молитвы и любовь к Сергею Господь вразумил его. Он прекрасно понял это. Если же он отвергает Господа и оскорбляет Его делами (языком признавать Господа невеликое дело, и бесы признают Иисуса Христа и Бога), то получит достойное по делам своим. **Бог поругаем не бывает.**

А ты проси у Господа терпения и защиты. На подвижников Божиих бесы явно нападали, били их, навели страшную тоску и прочее по попущению Божию. Терпением всего этого они доказали свою любовь к Господу и были награждены Господом. И тебе Господь попускает терпеть напасти от Сергея, вернее, от бесов, орудием которых является Сергей.

Терпи, родная, о Господе. **Претерпевший до конца спасён будет.** Таинственный духовный закон таков: **Многими скорбями подобает войти в Царствие Божие.**

Благословение Божие и помощь Его да покроют тебя от всякого зла. Не бойся. Волос с головы твоей не упадёт без воли Божией. Бес скачет задом и передом, а дело идёт своим чередом.

Да поможет Господь и Сергею избавиться от дьявола и покаяться.

* * *

Сказано: **Если приступаешь служить Богу, приготовь душу твою к искушению.**

* См. Ин, 1-14.

Если человек находится весь во власти дьявола, то может ли он не делать всяких пакостей тому, кто старается жить по Евангелию, кто жалеет его и хотел бы вырвать из рук дьявола? Лютой ненавистью ненавидели Иисуса Христа враги Его и добились Его распятия. Ученик не больше своего учителя. Ты по *внутреннему человеку** должна радоваться, что Господь ведёт тебя по Своему крестному пути, и всем сердцем благодарить Его. Весь ад, а не только Сергей со своими бесами ничего не сделает больше того, что позволит Господь. По человечеству принимай меры к своей безопасности, что можешь, а прочее передай воле Божией. Радуйся о Господе! Ты удостоилась чести святых, только без ропота, а с благодарностью понеси свой крест до конца. Внутренний человек - разумная, духовная часть души; сердце как вместилище Духа Божия.

Господь никогда не оставляет своих рабов. Потерпи, или он изменится к лучшему, или будет над ним суд.

Да поможет тебе Господь! Везде советуется претерпеть до конца. Пусть Господь разрешит это дело. Не бойся. В крайности я тебе всегда помогу. Господь да благословит и сохранит тебя!

* * *

Пишу это письмо при Сергее. Он со скорбью рассказал о ваших взаимоотношениях. Насколько я понял, вы оба виноваты и поступаете неправильно.

Если он пьёт, то надо его пожалеть. Он уже раб своей страсти. Один, своей силой избавиться он не может. Ты же, вместо помощи, только осуждаешь его, требуешь от него того, что он пока дать не может. Ты себя считаешь правою, но очень ошибаешься. Если ты духовнее его, то твоя обязанность понести его немощи. **Вы, сильные, немощи немощных носите**, - вот что требует от тебя Господь. Ещё сказал: **Вы, духовные, исправляйте такового** (как, например, Сергей) **духом кротости**. Слышишь? Духом кротости исправляйте, а не руганью, упрёками, ссорой, самооправданием и т.п. Таким поведением ты себя губишь; может от этого пострадать и Сергей, тогда ты ответишь и за его душу.

Со всем убеждением, со всей силой души моей, с любовью умоляю тебя: смирись пред Сергеем, сочти себя виновной пред ним (хотя бы ты и была в чём-либо права), попроси прощения за всё прошлое; затем дай обет Богу всё делать ради мира и спасения обоих. Ты не можешь спастись без Сергея, а он без тебя. Погибель одного будет гибелью и

* Внутренний человек—разумная, духовная часть души; сердце как вместилище Духа Божия.

другого. Вы повенчаны, вы составляете одного человека. Если твоя рука заболит, ты не отрезаешь её, а лечишь. Не можешь ты отрезать от себя Сергея, как и он тебя. Вам надо спастись вместе или вместе погибнуть. Сказано: *Любите врагов ваших, благословляйте проклинающих вас* и т.д. Не тем ли более вам надо любить друг друга, полагать душу свою за ближнего. Ты знаешь требование Спасителя: *Если принесёшь дар твой пред алтарём и вспомнишь, что брат твой имеет нечто против тебя, то иди прежде примиришься с братом твоим и тогда уже принеси дар*. Тогда только Господь примет его, а иначе отвергнет твои дары и твои молитвы, как отверг жертву Каина.

Кайся, я боюсь за твоё духовное устройство. Ты писала и говорила о том, что видишь свои грехи, сокрушаешься о них. Это очень высокое состояние, но с некоторого времени я стал сомневаться в этом. Не обманывает ли тебя враг? При искреннем впадении своих грехов нельзя серьёзно осуждать других, а тем более огорчать, как ты огорчаешь Сергея. Ты не должна требовать от него здоровья, когда он болен, а должна оказывать снисхождение его немощи. Не должна ругать, когда он пьян, а молчать, чтобы не вызвать на что-либо худшее. И в трезвом состоянии ты должна не пилить его, а совместно обсудить с ним, как вам быть, чтобы общими усилиями победить его слабость. Должна ты помнить и то, что ты не безгрешна. Можно дела по внешнему виду иметь вполне правые, а глубокие душевные мотивы (то есть причины) могут пред Богом оказаться лукавыми.

Преподобный Пимен Великий говорил, что наше спасение в ближнем, то есть в любви к ближнему. С этого надо начинать всем, а также и тебе. Никакие твои молитвы, труды, милостыни не будут угодны Богу, если будешь осуждать только Сергея, а не прилагать всех усилий: или спасти его, или решиться самой погибнуть ради его спасения. Только при этом условии Господь примет твои молитвы и добрые дела.

Сергею не говори ничего ни об этом письме, ни о содержании письма, иначе получишь вред. Я запрещаю тебе это. Не подумай, что я написал это тебе потому, дескать, что Сергей наговорил мне и я поддался. Нет. Ещё с весны и даже раньше я почувствовал неправду твоего устройства.

Да поможет тебе Господь понять написанное и приобрести мир и любовь с Сергеем! Да благословит тебя Господь и да исцелит твою душу! С искренним желанием тебе добра и спасения остаюсь любящий тебя Н.

Катя, пишите мне письма вместе с Сергеем. Исправляйте оба, чтобы оба были согласны с написанным.

* * *

Дорогой Сергей! Привет тебе!

«Как ты живёшь? Как здоровье твоё? Очень хотелось бы мне повидать тебя и побеседовать. Я слышу, что ты продолжаешь изрядно выпивать в крайний вред себе. Что ожидает человека на этом пути? Я тебе сейчас напишу.

Если ты не будешь бороться с этим недугом, то попадёшь под полную власть бесов. Они будут возбуждать тебя пить всё больше и больше и через это расстраивать нервную систему. Ты сделаешься раздражительным, гневливым. Лёгкие сначала, ссоры будут всё грубее, длительнее. Денег не будет хватать, сгонят со службы - надо будет продавать вещи, выпрашивать в долг унижительным образом, может быть, даже воровать. Гнев усилится до бесовской злобы, до желания убить.

Бесы, действовавшие втайне, станут являться в виде разбойников, диких зверей, змей и проч. Потом могут явиться и в своём безобразном гнусном виде. Если и тут ты не образумишься, то заставят тебя совершить какое-либо тяжкое преступление, например поджог, убийство, а затем приведут в полное отчаяние и заставят покончить с собой. Если бы со смертью человек совсем исчез, так можно было бы порадоваться, что кончились мучения, но ведь нет уничтожения. Пьяница, самоубийца из малых и временных страданий перейдут окончательно и навеки во власть бесов, в ужаснейшую муку, которой не будет конца.

Как люди духовные, борющиеся с грехом и побеждающие грехи, делаются постепенно способными чувствовать сначала духовный мир, а затем видеть Ангелов, точно так же преданные грубым страстям, особенно пьянству и разврату, если не покаются, будут видеть бесов и сделаются их рабами.

Уже внешний вид человека духовного и раба дьявола говорят ясно, к чему ведёт тот и другой путь. *По плодам их узнаете их*, - говорит Господь.

Дорогой, милый, добрый, умный Серёжа! Опомнись: куда ты идёшь? Если тебе здесь ещё тяжело, то каково будет после смерти? Страсти в тысячи раз более сильные, чем на земле, будут как огнём палить тебя без какой-либо возможности утолить их. За потерянную жизнь, за совершённые преступления совесть, как червь неусыпающий, станет грызть твоё сердце. А сознание, что сам себя лишил вечного блаженства в обществе святых людей и Ангелов, будет веки терзать тебя.

Серёжа, если не можешь бросить пить, так хоть осознай, что ты делаешь нехорошо, что губишь себя, обижаешь близких тебе, оскорбляешь Господа. Пойми это и припади к Господу хоть один раз в день и скажи Ему: «Господи, я погибаю, спаси меня, не допусти до окончательной гибели. Господи, будь милостив ко мне грешному». Если будешь так говорить ежедневно от всего сердца, то Господь простит тебе все грехи твои и спасёт от

погибели.

Первым вошёл в рай разбойник. Это устроил Господь для поощрения и утешения нас грешных. Всё прощает милосердный Господь искренне кающемуся. Не должно отчаиваться никакому грешнику. Не говори, что ты уже погиб, это бесовская мысль. *Радость бывает на небе об одном грешнике кающемся*, - говорит Господь. Он, Спаситель наш, пришёл на землю, чтобы *взыскать и спасти погибшего*. Не бойся бесов. Если они будут являться в каком-либо виде, то призывай имя Господа Иисуса Христа и крестись сам, и крести явившихся, и они исчезнут как дым. Не ножами или иным вещественным оружием обороняйся. Они не боятся этого, а борись именем Божиим. *Обышедше обыдоша мя, и именем Господним противляхся им**, оборонялись от бесов истинные христиане и нас научают этому.

Серёжа я тебя всегда поминал на молитве. Даю тебе обещание за каждой Литургией вынимать за тебя частицу и просить Господа, чтобы он вразумил тебя и помог избавиться от беды. Только ты сам хоть немного борись, не давай руки бесам. Сам проси, повторяю, хоть один раз в день с земным поклоном Господа, чтобы Он не оставил тебя на погибель, а спас от вечной муки. Пожалей себя, пожалей Катю. Ведь ты когда-то любил её. Может быть, и теперь любишь. Неужели тебе не жаль её терзать? Проси у неё прощения, если обидишь когда, чтобы и Господь тебя простил. Если ты сам не будешь в мире с близкими твоими, то как примиришься с Господом? Не отчаивайся, что бы ты ни наделал. В светлую минуту помолись Господу, и Он поможет тебе и всё простит. Серёжа, опомнись, пожал ей себя! При езжай к нам. Здесь можно исповедаться, причаститься. Походишь в церковь, считаешь книг духовных. Возьми отпуск и приезжай, хоть один, хоть с Катей, как тебе удобней.

Серёжа, я человек грешный, а жалею тебя от всего сердца.

Господь же в тысячи раз больше жалеет каждого грешника и ждёт только обращения его, чтобы простить все его грехи и мерзости и спасти. Обратись к Господу с молитвой, покайся в своих грехах, отойди от дурных людей и от твоей проклятой службы, и спасёт тебя Господь. Лучше нигде не работай, но не пей и не губи себя. Пока Катя тебя прокормит, а когда несколько укрепишься и овладеешь собой, то Господь устроит тебе невредную работу. Приобретёшь ты мир душевный, спокойствие, радость. А теперь ты только страдаешь и губишь себя и заставляешь страдать твоих родных.

Если не обратишься с покаянием и смирением ко Господу, то ещё здесь ожидает тебя великое страдание, а после смерти - плач, скрежет зубов, мрак, тартар, червь неумирающий

* Обступили меня, окружили меня, и именем Господним я воспротивился им (см. Пс. 117, 11).

и огонь неугасимый, вечная, ужасная, непостижимая и никогда не оканчивающаяся мука.

Как бы тяжело здесь ни было, но всему земному настанет конец. А после смерти вечность без конца - вечность или в неизреченном блаженстве, или в ужасной муке. Выбор в наших руках. Господь хочет всем радости вечной, но насильно никого не влечёт к Себе. Не хочешь быть с Господом во свете и блаженстве, пойдёшь к дьяволу в вечную тьму и муку.

Всё, что здесь написано – несомненная истина. Пожалей себя, Серёжа, будь милостив к себе. Аминь.. Искренне любящий тебя и желающий тебе добра, твой друг и отец.

* * *

Дорогой Серёжа!

Получил твоё письмо. Наверно, тебе уже сделали операцию и, надеюсь, удачно. Я всё время помню о тебе и желаю здоровья не только телесного, но и, что неизмеримо важнее, душевного. Поверь мне, что болезнь твоя не случайна, она послана тебе по великой милости Божией для спасения твоей души. Нужно было оторвать тебя от той безобразной жизни, которая губила тебя и огорчала всех любивших тебя.

Я уверен, что ты вполне осознал своё неладное прошлое и раскаиваешься в нём. Очистить душу от прежних скверн может один только Господь. И если ты без ропота, а с *благодарностью* к Богу потерпишь свою телесную болезнь, то этим покажешь свою веру, своё покаяние и смирение и получишь не только прощение сделанных прежде грехов, но и помощь на будущее время для борьбы с дурными влечениями, а после смерти – вечную жизнь в общении со всеми святыми, неизреченную радость. Не унывай, родной, отгоняй уныние и неверие, чаще призывай имя Божие, и Господь утешит тебя, хотя и даст потерпеть болезнь.

Когда тебя будет бороть уныние, тоска, то понуждай себя мысленно говорить: «Слава Тебе, Боже, Слава Тебе, Боже! *Достойное по делам моим приемлю.* Благодарю Тебя, Господи, что послал мне болезнь для спасения души моей. Слава Тебе, Господи, слава Тебе».

Говори эти слова десятки, сотни раз, говори убеждённо, от всего сердца, и через некоторое время почувствуешь облегчение на сердце, мир и спокойствие, твёрдость и терпение. Это признаки посещения благодати Божией. Дай обет Господу оставшуюся жизнь провести по-христиански, и Господь продлит дни жизни твоей на земле для покаяния и для приобретения новых свойств душевных, необходимых в Царствии Божием: смирения, кротости, воздержания во всём, милосердия, благоговения и благодарности к Богу, и проч.

Старайся меньше разговаривать с людьми, а упражняйся во внутренней молитве.

Господь да благословит тебя и вразумит на всё благое. Но и сам ты *уклоняйся от зла и твори благо*, борись с грехом, живущим в каждом человеке, ибо *Царствие Божие усилием берётся*.

Будь здоров телом и душой.

* * *

Серёжа, относительно прошлого не беспокойся очень, а когда вспомнишь, то проси у Господа прощения, и Он не вспомнит твоих грехов на Суде Своём. Только не повторяй их, не поддавайся внушениям врага.

Ты пишешь, что ещё «не научился бороться с врагом». Это всё равно, что школьник скажет: «Я ещё не могу быть профессором». Нам с тобой лучше побеждать врага смирением и молитвой к Богу, чтобы Он Сам, как знает, спасал нас и поборол наших врагов. Чаще благодари Господа за всё, принимай скорби и неприятности как вполне заслуживший, без ропота и уныния. Больше читай духовные книги и Евангелие. Земная жизнь скоро пройдёт, настанет вечная жизнь; к ней надо готовиться, чтобы она была радостью, а не мучением. Для этого и дана земная жизнь. Спасайтесь.

Не читай безбожных книг, не беседуй с безбожниками, иначе сильно повредишь себе и навлечёшь излишние скорби. Святая Церковь решительно запрещает не достигшим духовной силы эти беседы и чтение. Враг возбуждает безбожников начинать эти беседы, а тебе будет подавать мысль, что ты можешь обратить их к вере в Бога, что ты обязан пожалеть их, спасти от гибели и проч. Это хитрость вражия. Ты сам чуть не погиб. Нужна была очень сильная вера, а не слова, чтобы вразумить тебя. То же думай и о других. Если тебя пожалел Господь, так и всех жалеет и всем хочет спасения, лишь бы человек хоть немного сам искал, где правда, где ложь.

Господь да благословит вас с Катей, да вразумит на всё благое и оградит от зла.

* * *

Дорогой Серёжа, мир тебе и Кате!

Спасибо за письмо. Я уже начал очень беспокоиться о тебе. К сожалению, прошлое сильно давит на тебя. Я рад, что хоть ты сознаёшь это. Я не осуждаю тебя за это. Человек так слаб, так сильно действует грех в душе и теле, так злобятся бесы на того, кто хочет ускользнуть от их власти, что неизбежны падения и некоторые возвраты к прежней

греховной жизни. Ты не смущайся этим и не унывай. Сразу и лаптя не сплетёшь. Многими скорбями, борьбой, усилием входят все в Царствие Божие.

Ты читал в Евангелии, что Царствие Божие подобно закваске, которую вложили в муку, пока она вся не скисла. Так и душа человеческая не сразу бывает заквашена новой евангельской закваской. Иногда этот процесс заквашивания идёт быстро, иногда замедляется.

Ты понимаешь, о чём я говорю. Не смущайся поэтому, не видя никакого исправления. Одно нужно: стремись жить по заповедям Евангелия, борись, сопротивляйся добровольно каждому греху, делом ли, словом или помышлением, а не отдавайся добровольно дурному влечению. Если поддашься – кайся пред Господом, проси прощения. И опять борись, и так до смерти.

Помни, что своей силой ты ничего не возьмёшь, а всегда призывай Господа Иисуса Христа на помощь при всяком искушении. Тогда твоему доброму произволению будет содействовать сила Божия, поборающая всякий грех, всякое бесовское действие. Если поборешь какое греховное влечение, то не себе это приписывай, не своей силе, а Господу, и благодари Его, что Он помог тебе победить грех. Если же припишешь себе, то опять впадёшь в те же грехи.

Чаще призывай имя Божие. Ты несколько понял добро и зло. Господь теперь от тебя ждёт, чтобы ты прилепился к Нему, к Его святым заповедям, ими руководился бы в жизни, а не внушениями бесов и своей падшей природой, заражённой грехом. Выбор в твоих руках. Господь смотрит на тебя, куда склоняется твоя воля. Земная жизнь и дана человеку для того, чтобы он здесь избрал свободно или Бога, или дьявола. Будущая жизнь потому и зависит от здешней, что работавшие всю жизнь греху и дьяволу будут с ним и по смерти навеки. А те, кто всю жизнь тянулся к Господу, хотя временами и падал, после смерти будут с Господом в вечном блаженстве.

Господь тебе послал болезнь не зря и не столько в наказание за прежние грехи (хотя по закону духовному за всяким грехом следует скорбь), сколько из любви к тебе, чтобы оторвать тебя от греховной жизни и поставить на путь спасения. Благодарю за это Бога, заботящегося о тебе, не оскорбляй Его добровольными грехами, а борись со всяким грехом. Иначе можешь пострадать горше прежнего.

Заезжай, когда поедешь в Москву. Если можно, пусти Катю на несколько дней. Прости меня, если обидел тебя чем. Привет и благословение Божие Кате. Будьте здоровы. Да благословит тебя Господь и поможет спасти душу, а не погубить её ради ничтожных земных лукавых интересов.

* * *

Дорогой Серёжа!

Сон твой так ярко показывает, во-первых, что враги нашего спасения стараются войти в нашу душу, разграбить её, загрязнить, сделать непотребной для Господа; во-вторых, что спастись от них нужно молитвой дома или в храме и деланием заповедей; в-третьих, что Господь жалеет каждого человека и хочет ему спасения. Какую надо было иметь любовь к грешнику, чтобы Самому Творцу мира воплотиться на земле, потерпеть оплевания, биения, издевательства и крестную смерть ради спасения грешных!

Если мы на эту любовь Божию к нам ответим равнодушием, неверием, нежеланием бороться с грехами, сознательным нарушением заповедей Божиих, самооправданием вместо слёзного покаяния, то что ожидает нас? Ожидает нас тогда отвержение от лица Божия.

Серёжа, ты имеешь все условия для покаяния и спасения, и внешние, и внутренние, какие теперь в наше время редко кто имеет. Если не воспользуешься этим, а будешь откладывать дело спасения, то можешь очень обмануть себя. Завтрашний день не принадлежит нам с уверенностью. Господь предупреждает всех: будь готов каждую минуту, не знаешь ни дня, ни часа, когда придут за душой твоей.

Очень советую тебе: не оправдывай себя ни в коем грехе, как бы мал он ни казался. Всякий грех есть нарушение воли Божией, показатель нелюбви к Богу, как и наоборот. **Меня любит тот,** - говорит Господь, - **кто исполняет заповеди Мои.** Поэтому надо всякий сделанный грех очищать покаянием.

Серёжа, у тебя есть дома учительница духовной жизни - Катя. Ты пред ней младенец-сосунок. Поэтому слушайся её, спрашивай обо всём, что тебя интересует в духовной жизни. Ни один духовный отец так не может любить, как она тебя. Поэтому ты можешь много пользы получить от неё.

Если ты уж будешь сомневаться в словах Кати, то напиши мне. Я постараюсь не моё мнение, а мнение святых отцов тебе изложить по этому случаю.

Молись о мне. Катю не обижай, и ещё говорю - слушайся её в вопросах духовных.

* * *

Христос Воскресе!

Дорогой Серёжа, я слышу, что ты совсем попал в сети вражии. Неужели ты этого не видишь? Неужели тебе не ясно, что враги хотят тебя погубить? Жить тебе осталось немного. Если не одумаешься, то после смерти попадёшь прямо в руки бесов. Ты знаешь,

как они жестоки. Для них существует одно только удовольствие - губить и мучить людей. Никто и представить не может, какой ужас, какие муки терпят те, кто попадёт в руки бесов. Иногда безумные пустые люди говорят: «Что другим, то и нам будет». Разве это утешение? Для всех хватит бесов. Пусть этим не утешаются.

Серёжа, тебе Господь многое показал. Ты сам дал обещание исправиться, ты просил дать тебе время для покаяния. Господь дал тебе время: продлил жизнь, освободил от работы, обеспечил всем. Дал и для покаяния помощь в лице о. Павла и твоей собственной жены. А ты что делаешь - кое-как исповедуешься и чуть ли не в пьяном угаре причащаешься. Что это такое? О чём ты думаешь? Знай, что **Бог поругаем не бывает**. Господь ждёт покаяния от людей грешных, потому и долго терпит. А безумные люди думают: грешники благоденствуют - значит, Бога нет. Бог жалеет их, вразумляет и добром, и скорбями, и болезнями, ожидая их исправления. И если не каются, то оставляет их в земной жизни на их волю, чтобы воздать должное после смерти. И праведникам часто тяжело умирать, а про грешников сказано: **Смерть грешников люта**, а жизнь после смерти ещё лютее.

Серёжа, ты ведь не глупый и не без сердца. Подумай, куда ты идёшь. Покайся искренно, от всего сердца, не внешне, по обычаю, без сокрушения, как очень многие делают, а потом причащаются в осуждение себе. Ты у себя дома, один, поплачь пред Господом, проси от всего сердца прощения за прошлую безобразную жизнь. Проси помощи для исправления. А прежде всего искренне попроси прощения у Кати, помирись с ней, чтобы и она от всего сердца простила тебя. Когда человек находится во вражде, то его молитвы не принимаются Богом. Это ты знаешь. Поэтому помирись с Катей и со всеми, кого чем обидел, и тогда смело припадай ко Господу, кайся, проси Господа не допустить тебя до погибели.

Ты стоишь на краю пропасти. Бесы легко могут столкнуть тебя в бездну. Если не можешь бросить пить, то пей дома, не оскорбляй Катю. Прежде чем выпить, помолись хоть одну-две минуты, скажи: «Господи, я не могу сам удержаться от водки, сейчас буду пить, напьюсь, может быть, буду сквернословить и ругать жену. Господи, если можно, удержи меня или прости, что я опять напьюсь». Когда помолишься так, тогда пей, стараясь выпить поменьше. А когда протрезвишься, первым делом спроси, не оскорбил ли ты Катю, не ругался ли скверно и прочее, помирись с ней и помолись, проси прощения от Господа.

Дорогой Серёжа, знай, что радость бывает на небе об одном кающемся грешнике. Не можешь удержаться, так плачь пред Господом, умоляй простить и дать силу воздержаться. Только искренне желай не оскорблять Бога и ближних. Не оправдывай себя никакими обстоятельствами, не обвиняй никого, кроме себя. В самооправдании гибель. Это голос бесов. Смирись пред Богом и людьми. Не тщеславься, не осуждай никого, чтобы тебя не осудил Бог. **Вынь бреет из своего глаза, тогда увидишь, как вынуть сучок и из глаза**

другого человека. Пожалей себя, не губи окончательно. Да вразумит и поможет тебе Господь, да не попустит твоей гибели.

* * *

Дорогой Сергей Павлович!

Получил твоё многословное письмо. Из него видно, что ты ничему не научился. Всё та же старая песня, самооправдание, обвинение других и нежелание потрудиться над своим спасением. Вместо того, чтобы с помощью Божией и добрых людей подняться духовно, хотя бы только до Кати, ты всё время стараешься, чтобы она опустилась до тебя.

Твоё дело ясно. Если хочешь спастись, перестань напиваться и предавать себя в руки бесов. Не будет от них пощады тебе, если Господь отступит от тебя за твои мерзости. Ты не забывай не только пьянки и связанных с ней мерзостей, но и других бесчисленных грехов. Не сам себя оправдывай, а проси прощения от Бога. Но Бог не прощает тем, кто сам не прощает другим, а ты всё злопамятствуешь. Не хочу пророчествовать, но скажу основательно, что ты жестоко страдаешь, если не исправишься.

Ко всем грехам своим ты ещё прибавляешь фарисейство. Твой несчастный язык оправдывает тебя во всех мерзостях и грехах, а обвиняет других. И люди верят этому, а ты в очах Божиих делаешься фарисеем, которых так не любил Господь и заживо осудил их, если не покаются.

Если хочешь спастись, покайся в прошлых грехах на исповеди, и дома ежедневно на молитве вспоминай все свои прошлые грехи и проси Господа простить прошлое, дать силы в будущем не грешить.

На другие вопросы нет нужды отвечать. Сам знаешь, как ты поступал раньше недостойно, должен знать и теперь. Спасайся. Господь да вразумит тебя и да поможет. Не пытайся обмануть Господа. Имей в виду: кто даже нарочно, с целью напугать других людей лезет в петлю, того бесы и против воли задушат. Так не дури, а пожалей себя, не протягивай руки бесам. Они рады забрать тебя к себе, но уж пощады от них не жди.

Когда тебя будет очень тянуть к выпивке - сделай три земных поклона и скажи: «Господи, опять моя испорченность тянет напиться. Я не могу, не имею сил удержаться. А если будет Твоя милость - дай мне силы воздержаться. А если я не достоин Твоей помощи в этом, то огради меня от бесов и большого вреда, если напьюсь».

Если со смирением будешь так просить Господа перед каждой выпивкой - Господь даст тебе силу воздержаться. А если будешь опять осуждать других, то будешь снова предан в руки бесов.

Я болен. Больше не могу писать. Помолись за меня. Привет и благословение Кате.

—

Эти письма Маниловым написаны игуменом Никоном в 1958-1963 годы. После смерти мужа в конце жизни Екатерина приняла постриг с именем Херувимы в Шамординой обители, где и скончалась в 1995 году.